令和８年度　山北町まち・ひと・しごと創生推進会議　議事録

１　開催日時　　令和８年８月２４日（月）

開会：１４時００分　　閉会：１５時０５分

２　開催場所　　山北町役場　４０１会議室

３　出席者（敬称略）

（1）委員　６名

かながわ西湘農業協同組合山北支店　支店長　熊澤　正仁

山北町　副町長　石田　浩二

神奈川県立山北高等学校　校長　多田　功

横浜銀行山北支店　支店長　栗橋　庸介

さがみ信用金庫開成町支店　支店長　瀬戸　秀恭

株式会社タウンニュース社小田原支社足柄編集室　編集長　竹松　誠二

（2）事務局　３名

参事兼企画総務課長　露木　博文

企画総務課主幹　　高橋　和久

企画総務課主任主事　相原　一樹

４　会議概要

１　開　会　参事兼企画総務課長

２　議題

（1）山北町デジタル田園都市構想総合戦略の令和７年度進捗状況について

会　長	それでは、議題（１）山北町デジタル田園都市構想総合戦略の令和７年度進捗状況について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	資料により説明。

会　長	この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
委　員	数値目標は目標達成率80%以上が概ね８割を占めており、KPI も目標達成率80%以上が５割を占めているとの説明で、数字で見ると順調に見受けられる。ただ、この説明だけだと数字の先にあるものが分からない。例えば、基本目標２の「空き家バンクの運営」については、当社の空き家専用住宅ローンで町と提携しており、目標としては達成となっているが、定住促進を図っていくためにはもっと件数が必要なのではないか。そのためにも、空き家の活用や、補助金と空き家専用住宅ローンの活用を併せた事業など、町との共同事業を提案し合いたいと考えている。 また、計画の推進の「スマートフォン教室の開催」の目標達成率が260%で、目標値30人に対し、すでに78人となっている。その一方で「e ラーニングによる情報連携に向けた研修の受講」は目標達成率が４%となっており、町が考えているものと町民が求めているものにギャップがあるように感じる。「スマートフォン教室の開催」の結果はよいと思うため、こういったところで町民の意見を聞けるような仕組みがあるとよりよいのではないか。
事務局	「空き家バンクの運営」については、不動産会社からの斡旋による個別相談において物件や補助金等を案内しているが、共同での対応は行っていない。町としては空き家見学ツアー等のイベント開催を主に行っており、その際には不動産会社にも協力していただいている。共同事業の提案については、所管課である定住対策課に情報共有する。 「e ラーニングによる情報連携に向けた研修の受講」は職員向けの研修となっている。「スマートフォン教室の開催」については、実績値が大きく伸びているため、今後目標値の見直しも含めて検討していきたい。また、基本目標４の「公共施設予約システムの充実」と「生涯スポーツセンターの充実」も同様に目標値を大きく超えているが、生涯スポーツセンターの設置初年度ということもあり、今回は様子を見ることとした。
委　員	基本目標３の「放課後子ども教室の運営」については、学童とは異なるのか。

会　長	放課後子ども教室は学童と一体ではなく、学童に入っていない児童も放課後子ども教室を利用することができる。ただ、利用者数としてはほぼイコールになりつつある。
委　員	当社の職員に湘南ベルマーレフットサルクラブの選手がおり、さまざまな企業でサッカーのレクチャーや金融教室などの活動を行っている。放課後こども教室の支援員が不足していると説明があったため、お声がけいただければ協力できるかもしれない。
委　員	計画の推進の「マイナンバーカードの普及率」について、全国的に見ても同等の普及率なのか。また、町民の21%がまだマイナンバーカードを発行していないということか。
事務局	全国的に見ると若干低い割合となっている。比較的高齢者の方がマイナンバーカードをまだ発行していない傾向にある。
委　員	計画の推進の「マイナンバーカードと連携した行政サービスの提供数」については、どういったものを指しているのか。
事務局	転入転出や福祉・保険関係の手続きについて、スマートフォンでマイナンバーカードを読み取りインターネットから行うサービスを指す。ただ、福祉・保険関係の手続きをする方は支援が必要なことも多く、導入しても利用者が少ない可能性があり足踏みしていると聞いている。また、マイナンバーカードを利用した「書かない窓口」というサービスは、転入手続きの際に複数課で必要な手続きを簡略化できる。今後導入を検討していきたいと考えている。
会　長	先ほど事務局からDX推進リーダーの説明が少しあったが、今年度から企画総務課で実施している組織づくりについて紹介していただきたい。
事務局	これまでは企画班の２名でDXを担当していたが、専門的に対応することが難しいため、今年度から２名体制のデジタル推進班を設けた。うち１名は、民間企業のSE経験者を一般枠で採用した。現在は、各課でデジタル関係の困りごとや提案を受け、できる範囲から対応している。

（2）新しい地方経済・生活環境創生交付金について

会　長	次に、議題（2）新しい地方経済・生活環境創生交付金について、引き続き、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	資料により説明。
会　長	この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
委　員	「キャッシュレスレジ導入事業」について、KPI①「キャッシュレス決済の利用割合」は目標達成とのことだが、目標値が低いように見受けられるがどうか。
事務局	窓口利用者に高齢者が多く、そもそもキャッシュレス決済の手段を持っていないこともあるため、高い目標を立てられなかったと認識している。
委　員	当社も窓口をタブレット化しているが、高齢者からは評判が悪いと聞いている。一方で、町内薬局などで高齢者がキャッシュレス決済を利用している場面も見かけるため、町でも声かけを行っていけば利用率は上がると思う。
委　員	「公共施設予約管理システム導入事業」について、窓口には1日どれくらいの人が来ているのか。また、システム導入によりどれくらい業務効率化が図れたのか。
事務局	生涯学習センターは、年間2,613件のうち、インターネットが415件、窓口が2,198件で84.1%を占めている。生涯学習センターは、本申請の際に来庁する必要があるため利用割合が低い。一方で、生涯スポーツセンターは、年間1,105件のうち、インターネットが966件で87.4%、窓口が139件で12.6%となっている。施設全体では、年間10,691件のうち、インターネットが5,828件で55%を占めている。利用料を複数人で集金する場合など、現金支払いを希望する方は利用が難しい。また、テニスコートや体育館の利用においては、鍵を借りるために来庁する必要があるが、DX推進リーダー会議でスマートフォンに暗証番号を通知するシステムも検討している。
委　員	この予約システムは山北町在住在勤の方しか利用できないのか。
事務局	町外の方でも団体登録をしていれば利用できる。
委　員	「デジタル施策の利用促進を見据えた公金収納のセルフ化事業」について、

	KPI①「セルフ収納機の利用率」の実績値が 43.56％となっているが、利用率が低いように感じた。
事務局	導入当初は慣れないため利用率が低くなった。
委　員	今年度の状況はどうか。
事務局	当初は利用方法を説明する必要があり、窓口と対応時間があまり変わらなかったが、一度説明した方は次回以降一人で利用できていると聞いている。

（3）企業版ふるさと納税について

会　長	次に、議題（3）企業版ふるさと納税について、引き続き、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	資料により説明。
会　長	この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
委　員	地域再生計画の「寄附の金額の目安」が５か年で 18 億 5,000 万円となっているが間違いないか。
事務局	間違いない。この目安は、この金額を上限に寄附が受けられるというものなので、高めの金額としている。

（4）　その他

事務局	今後のスケジュール及び議事録の確認について、説明。

3　閉　会　　参事兼企画総務課長

以　上